

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10. No.3 2008年2月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

日本タンバーク、最大 1000 拠点の同時接続に対応したビデオ会議向けゲートウェイの提供開始



写真左：TANDBERG Codian MSE 8000 シリーズ

日本タンバーク株式会社（東京都港区）は、新たに機能強化をしたビデオ会議向けゲートウェイ「TANDBERG Codian MSE 8321(タンバーク・コーディアン MSE 8321)」

の販売を開始した。TANDBERG Codian MSE 8000 シリーズは、主にサービス・プロバイダー、大企業向けを想定したシステムで、ゲートウェイ、多地点接続、録画、管理ブレードなどの機能を単一シャーシで提供する。

今回の機能強化では、Codian 製品と TANDBERG の総合的なソリューション・ポートフォリオとの結びつきが強化されたことがポイントだが、(1)ISDN/IP による最大 1000 拠点のビデオ会議接続を実現、(2)ISDN/IP による最大 180 拠点の HD ビデオ会議接続を実現、(3)ブレード当たり8つの PRI ポートに対応。単一シャーシで最大 72 の ISDN PRI (NTT INS 1500 相当)をサポート。(4)9 つの ISDN ブレードに対応。前モデルと比べ4つの増加、などが特徴となる。

日本タンバーク、TANDBERG Content Server バージョン 3 リリース、HD 品質に対応し、iPod や Zune へのコンテンツダウンロードを実現

日本タンバーク株式会社（東京都港区）は、

「TANDBERG Content Server(タンバーク・コンテンツ・サーバ)」の最新バージョン バージョン 3 の提供を 1 月 23 日より開始した。この Content Server の用途としては、特に教育機関での講義の配信や企業の社内研修など幅広く活用できると同社では説明する。

今回の新しいバージョンでは、従来の標準画質でのマルチメディア・プレゼンテーションの作成(録画)、保存、配信(ダウンロードを含む)の機能に加え、以下の5点がアップデートされている。



TANDBERG Content Server

(1)HD品質のビデオ会議やマルチメディア・プレゼンテーションの作成、保存、720p(最大 30 フレーム/秒)での再生、16:9(ワイドスクリーン)での視聴に対応。(2)標準規格に準拠した H.323/SIP ビデオ会議システムのコンテンツを録画。(3)Microsoft Windows Media、QuickTime 互換の MPEG4、RealPlayer など、主要なストリーミング・フォーマットの全てに対応。(4)Apple の iPod や Microsoft Zune などのポータブル・メディア機器上に録画したコンテンツをダウンロードでき、ユーザは必要な時にいつでも情報にアクセスし、視聴することが可能。(5)サムネイル画像による操作を実現した最新の組み込みライブラリによって、容易なビデオ会議コンテンツの検索が可能。

加えて、この Content Server の特徴は、アプリケーション・プログラマブル・インターフェース(API)を通してサードパーティのアプリケーション(Microsoft Office SharePoint Server、IBM WebSphere、Accordent Media Management System、Blackboard Learning System 等)と連携させることが出来る点にもある。たとえば、そのアプリケーションに Content Server の機能を組み込んだり、ビデオ会議での録画保存された映像を Web サイトに投稿・ネット配信したりするといったことが可能だ。

エルモ社、135 万画素センサー搭載、HD 対応の書画カメラを発売



P30S

株式会社エルモ社(愛知県名古屋市)は、大学等文教ならびにビジネス市場向けに、低価格ながらも、最高性能、最高品質を追求し、操作性をさらに向上したモデルとして、書画カメラ「P30S」を1月下旬から発売。価格は、従来機種に比べ据え置きの 262,500 円(税込み)。

P30S は、既存機種「P30A」に対し、撮像素子を 85 万画素から 135 万画素(1/3 インチ CMOS)に高画素化することで映像出力が XGA(1024x764)から SXGA(1280x1024)に対応するとともに、HD テレビ会議用途などに最適な HD 出力(1280x720)にも対応。そのためプラズマディスプレイなどアスペクト比 16:9 ハイビジョン対応モニターによる表示も可能。そして、ハイビジョンモニターやプロジェクタに採用されている画面のちらつきやにじみの発声を防ぐプログレッシブスキャン方式にも対応している。

カメラズームは、64 倍ズームを採用(光学 16 倍xデジタル 4 倍)。様々な被写体に対して瞬時にズームフォーカスを定めるワンプッシュオートフォーカス機能も搭載。立体物やスライドフィルムなどの特殊な資料や極小サイズの被写体などに最適で、操作性のよいズーミングが行えるという。

また操作環境についても、使用頻度の高いズーム、オートフォーカスなどの操作ボタンをヘッド部に集約し、ユーザが見やすい位置に 3.5 インチ液晶モニタを内蔵している。これは投影画面を振り返らずに資料の位置が確認できるようにするためのもの。これらの点は書画カメラを使ったプレゼンテーションをスムーズに行うための同社が工夫したところだ。

P30S は、動画の投影時やズーム調節時に不自然な残像が生じるストロボ効果を解消する毎秒 30 フレームを実現した。ストロボ効果とは、1秒間のフレーム数(コマ数)の少なさが原因になって発生する。それによって、投影された資料を聞き手が見ると、視覚的な違和感が残りプレゼンテーションに対する集中力に影響を与える要因となっていた。

その他、P30S は、USB 2.0 端子を搭載。パソコンと接続することで、P30S で読み込んだ画像をパソコンの画面上に表示することも出来る。その上、ライブ動画像と静止画像の分割表示やホワイトボード感覚でラインや文字を書き込める描画機能などもある。さらに、内蔵されたSDカードスロットを活用することで、SDカードに保存されたデータを P30S で表示したり、逆に P30S で読み込んだ画像をその場で SD カードに保存したりすることも可能だ。

収納時幅 376mm x 高さ 181mm x 奥行き 482mm、セットアップ時 376mm x 高さ 549mm x 奥行き 482mm。質量約 4.6kg(本体のみ)。カメラとライトを軽く引き下げでき、セットアップと収納が簡単なワンウェイクラッチ機構を採用。

製品・サービス動向-海外

ラドビジョン社、IBM Lotus sametime 用 SCOPIA ソリューションを提供

ラドビジョン社(イスラエル)は、同社製品である「SCOPIA Conferencing Platform(スコーパー・コンファレンシング・プラットフォーム)」が「IBM Lotus Sametime(IBM ロータス・セイトムタイム)」をサポートすると発表した。

ラドビジョン社のビデオ及び音声プラグインを Lotus Sametime に追加することで、Lotus Sametime から複数拠点間の音声会議やビデオ会議ができるようになった。会議を始めるには、Lotus Sametime のインスタントメッセージングのチャットを使うが、従来の標準画質(SD)のビデオ会議の他、ハイデフィニション(HD)画質のビデオ会議、3G 携帯テレビ電話、電話機などとコミュニケーションが行える。

Vidyo 社、シスコシステムズへテレビ会議用技術のライセンスを供与、スケーラブル・ビデオ・コーディング技術のライセンスビジネス強化、またその技術を活用した IP テレビ会議システムも製品化

アメリカのベンチャー企業 Vidyo Technology 社(旧 Layered Media 社)が、同社を持つテレビ会議用技術をシスコシステムズへライセンスしたと発表した。そのテレビ会議用技術とは、H.264/SVC をベースに Vidyo が開発した技術。シスコシステムズは、同社のユニファイドコミュニケーションソリューションにその技術組み込むことで、ユーザが不安定なIPネットワーク上であってもより高品質な映像コミュニケーションが可能になると評価した。

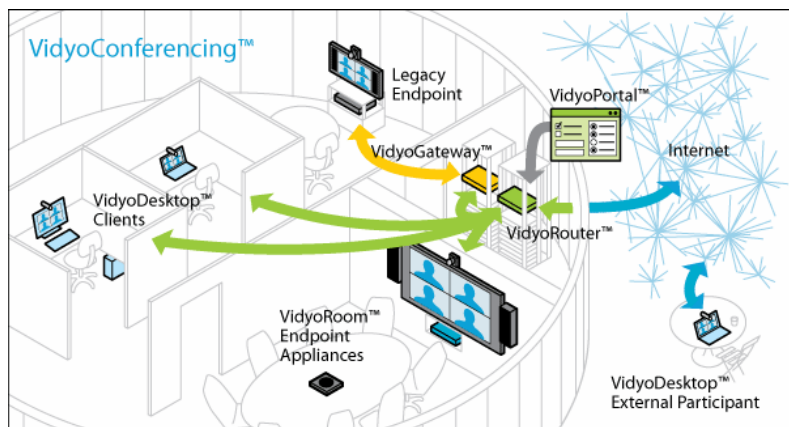
H.264/SVC は、2007 年 11 月に ITU-T にて勧告された新しい映像符号化方式。正式名称は、「H.264 annex G」。スケーラブル・ビデオ・コーディング(Scalable Video Coding)技術を採用し、既存の H.264/AVC を強化した方式になる。SVC では、映像のストリーム(ひとつのデータの流れ)を、複数の解像度、品質レベル、ビットレートに分解

することで、パケットロス、帯域の変動、遅延などに対して映像のストリームに柔軟性を持たせることが出来る。その結果、不安定なIPネットワークであっても、テレビ会議の映像品質に影響を及ぼす要因を最小化することが可能になる。

一例として、一般的にはネットワーク上に数パーセントのパケットロスが発生すると、その影響から IP テレビ会議の映像に乱れが生じるが、同社では、この新しい技術を使うことで、5%、10%、20%程度(その映像ストリームを完全に送受信するために必要とする総パケット数のうちで、喪失したパケット数の割合を指す。)のパケットロスが発生しても映像品質の劣化を抑えることができている。また、複数の複数の解像度、品質レベル、ビットレートに対応することは、違った解像度やビットレートを持つ端末間の IP テレビ会議であっても、それぞれのベストなスペック条件でお互いが接続できる効果などもある。

それらはユーザエクスペリエンス(使用感)の向上にとって不可欠の技術になると Vidyo 社では考えている。

同社は、昨年の増資によって資金を基に、この技術ライセンスビジネスと、その技術を活用した製品開発を行った。



Vidyo Conferencing 構成例

製品としては、「VidyoRouter(ヴィディオ・ルータ)」、「VidyoRoom(ヴィディオ・ルーム)」、「Vidyo Portal(ヴィディオ・ルーム)」、「VidyoGateway(ヴィディオ・ゲートウェイ)」を提供する。

同社では、VidyoRouter を、テレビ会議システムの常識と

なっている多地点接続装置(MCU)を不要にする“新しい技術的パラダイム”と位置づけている。H.264/SVC 技術を活用することで、VideoRouter は、映像レイアウト(composite layout)、帯域調整(rate matching、異なった端末の帯域を調整する)、エラーローカリゼーション(error localization、特定端末で発生したエラーを拡散しない)処理などに機能を絞り、端末がもつ限られた処理能力にあった映像パケットのみをネットワークの状況に応じて可変的に送出するところなどに特徴がある。そうすることでネットワーク上に発生する映像遅延から生じる端末への影響を最小限に抑える働きをする。

同社では、これらの技術を組み合わせることで従来よりも安定した高品質の IP テレビ会議が低コストで実現になると説明する。

広告が付く無料の電話会議サービスが北米で開始

無料の電話会議サービスを提供する米 Free Conferencing Corporation of America 社は、VoodooVox 社の In-Call Media 技術と組み合わせ、音声広告が入る無料の電話会議サービスを開始。広告主が電話会議サービスをスポンサーとしてサポートすることで無料サービスを提供する。業界初と同社では発表する。

広告は、ユーザが電話を通して電話会議室に入る際に、5-6 秒の音声等で流れる形で提供される予定。

電話会議サービスとしては、同時参加数は、96 名まで、録音(再生、ダウンロード)、会議コントロール機能、利用明細、Podcast、RSS Feed 機能などを無料で提供する。現在このサービスは、ベータ版で提供している。

同社ではこの新サービスに先立ち、無料サービスと、機能が豊富な有料定額サービスを提供してきたが、50 万ユーザ登録、月に 750 万の接続がある。2001 年設立。

業界ビジネス動向-海外

ライフサイズ社、2007 年の事業展開好調、新たにマネージメントに前デル社 VP を迎える

HD テレビ会議システムを専門に開発する米ライフサイズ社によると、2007 年の事業展開は、売上の前年比に3倍に拡大し、さらにその勢いを 2008 年の事業につなげたい考えだ。売上は世界各地において強い成長が見られた報告。特にエントリー機「LifeSize Express(ライフサイズ・エクスプレス)」を市場投入してから事業にさらに弾みが付いたようだ。同社の売上の 1/3 は新規の導入ユーザという。

また、昨年は、チャンネルの拡大は新たな事業機会の創出につながると販売チャンネルの強化も図った。たとえば、北米では Tech Data 社、オーストラリアでは、Westan 社、中国では ZTE 社など大手と提携が進んだ。

さらに、今回、同社のマネージメントに、前デル社(パソコン大手)バイスプレジデントの Colin Buechler 氏を迎えた。Colin Buechler 氏は、デル社での5年間の在籍期間に南北アメリカ事業部門において、製品やサービスのポジショニング、価格戦略、インバウンド顧客のニーズ分析、そして需要喚起などのためのマーケティング戦略を手がけた。特に成長が著しい新製品や市場セグメント(mid-market)での成長戦略で実績がある。デル社の前は、ベンチャーキャピタルやコンサルティング会社などでの経歴がある。



LifeSize Express(ライフサイズ・エクスプレス)

ライフサイズ社は、今後 SMB(Small and Medium Business、中小企業)が新たな開拓すべき有望な市場と見ている。LifeSize Express など予算以内に手軽にHDテレビ会議システムが導入できる環境が揃ってきたことなどから、Colin Buechler 氏を迎え、今後中小企業ユーザへの販売拡大

を期待している。

昨今温暖化問題が注目を浴びていることから、同社では、環境問題への取り組みとして「PlanetWise プログラム」を開始する。テレビ会議システムを活用することで出張を減らせる機会が増え、それが企業などの CO2 の削減努力に寄与すると考える。そこで今回プログラム実施の一環として、環境問題に積極的に取り組む NGO 組織 The Climate Group に同社の HD テレビ会議システムの無償を含めた支援を行う。The Climate Group は、グローバルに展開する環境団体で、国際会議などでの出張のかわりにテレビ会議システムを活用する。

またライフサイズ社自身が社内の環境アセスメントを実施、それに基づきテレビ会議を使った CO2 の排出削減を行い、環境にやさしい企業を目指すとともに、そこで得られたノウハウの共有などを外部と行っていく考えだ。テレビ会議を効果的に使用することで、環境に配慮でき、なおかつビジネスの結果も出せ企業の持続的成長が期待できると同社では考えている。

Compunetix 社、出荷ポート数が前年度より 50%増加

音声会議など多地点接続装置を専門に開発する米 Compunetix 社の発表によると、同社の上荷ポート数が前年度比 50%以上の伸びを記録した。

同社によると、450,000 ポート以上が、現在、日本を含め世界 28 カ国の一般企業、政府機関、CSP などにおいて稼働していることになる。

今回の伸びの分析としては、ハイエンドシステム「CONTEX Summit(コンテックス・サミット)」を中心に販売が伸びたことが大きくある。また、競合他社製のリプレース受注、既存顧客のアップグレード、システムのインテグレーションなどが好調だった。

同社は、設立されて今年春で 40 周年を迎える。「当社は、コラボレーション・サービス・プロバイダー (Collaboration Services Provider、多地点接続サービス事業者のこと。)

フォーカスした事業展開を行っている。我々の製品は単に CSP のニーズに対応するだけでなく、その向こう側のサービスの利用者も念頭に入れて製品開発を行っている。多地点接続のホスティングやマネージドサービスなど CSP のサービス提供方法に柔軟に対応するとともに、オペレータアシストやリザーベーションレスなどサービス利用者の高度なニーズに対応したシステムを提供していることが今回の販売拡大の要因と分析している。」(コンピュネティクス)

CNA レポート・ジャパン橋本の補足:多地点接続装置は、ポート単位で動向を見る。従って、市場統計を集計する際の多地点接続装置の販売台数のカウント方法は、装置台数ではなく、装置毎のポート数の積算で出荷数を計算するのが一般的な方法。また、ポート単価で多地点接続装置の価格動向を見る。装置自体の価格は製品毎に違うとともに、搭載しているポート数も違うからだ。

オペレータアシストとリザーベーションレス (reservation-less) の違いは、多地点会議サービスを利用する際の、事前予約を行うかどうかの違い。前者は、事前予約で会議サービスを利用するが、後者は、事前予約なしで会議サービスを利用できる形態となる。

セミナー・展示会情報

無料 Web セミナー [e ラーニング特集 第 3 弾] WebEx を使おう! 基礎の基礎!

~ まずはここからスタートしましょう e ラーニングも Web ミーティングも ~

日時: 2 月 21 日 (木) 14:00-15:00

会場: インターネット上の会場 (オンライン)

主催: ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン(株)

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_022108.html?SourceId=hpg

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

ZDnet Japan スペシャルで 2 月 7 日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本も何回かコラムを書かせていただくことになりました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

代表 橋本啓介